



守りたい あなたの生命生活を



宗像市議会議員 岡本陽子

自宅 福岡県宗像市自由ヶ丘 7-6-1

TEL/FAX (0940)25-5344

E-mail taiyoudaisukinayoko@yahoo.co.jp

何でもお気軽にご相談ください。

★医療、教育に関わった経験を活かし、市民の声を議会に届けます。★

昨年の宗像市議会議員選挙において初当選をさせて頂きました。ご支援頂いた多くの方々にお応えするため、更なる努力をして参る所存です。

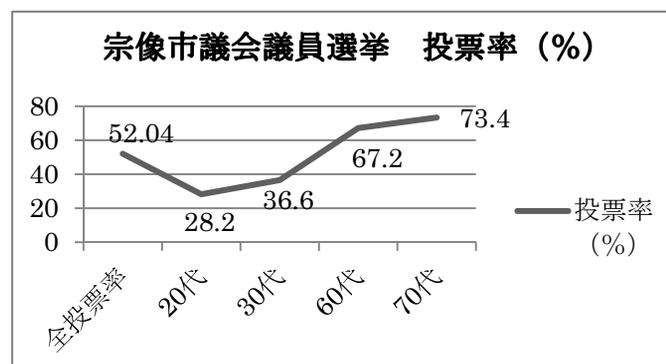
公明党は、市民から直接聞いた生の声を、議会の場に“届ける”ことで市民が議会に参画できることを目指します。わたしは、これまで生命誕生の瞬間から、高齢者の介護に至るまで、各年代の健康について関わってきました。健康であるために、子どもから高齢者まで多くの人が周囲の支えを必要としています。



WHO（世界保健機構）では、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること。」と示されています。その中の社会的な健康をもたらすために政治の力が必要であると考えます。その一端を担い、市民の様々な暮らしの課題を議会の場で解決したいと考えています。介護や子育て、医療費の問題、シングルマザー就職支援、発達障害支援などすでに多くの市民相談が寄せられ、解決のための取り組みをしています。

★民意が反映される選挙、市民が関心を持ち、参画できる議会を★

昨年の宗像市議会選挙では、前回よりも投票率が下がりました。(図1) 12月議会では、民意が反映された選挙であるために、投票率をあげる工夫について市の見解を聞きました。20代、30代の投票率低下に対するの対策、期日前投票の場所の検討、若者の選挙への意識を高めるための啓蒙活動の工夫などの要望を出しました。



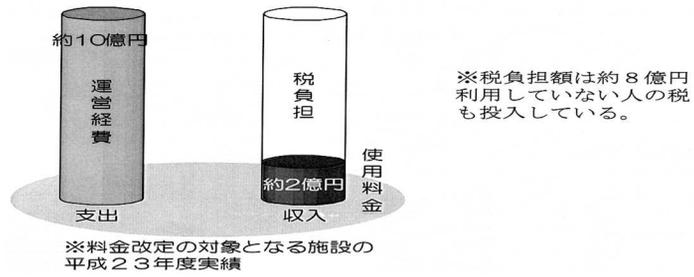
前回の投票率
57.31%

図1

12月議会報告

議会のポイント

◆公共施設使用料見直し◆



議会において可決（賛成：17 反対：3）されました。
 税負担額は約8億円を施設利用していない人の税の投入をしています。平成6年より20年間見直しされていなかった公共料金変更について、利用する人、利用しない人との税負担の公平性、使用料金の算出基準や減免対象となる団体、施設の内容について検討しました。
平成26年より全524件の施設のうち、433件（83%）が値上がりする予定です。新料金の設定は急増に配慮し、見直し対象とした施設全体で2000万円増収の見込みです。

◆宗像市部設置の改正◆

全員賛成で可決されました。

平成24年度 平成25年度
11部-47課-81係 → **都市戦略室を含む**
11部-44課-77係

となります。部課係の変更によって市民の窓口での混乱がないよう要望しました。

◆宗像市青少年センターの廃止◆

全員賛成で可決されました。

代わりに、平成25年4月「子ども家庭相談センター（仮称）」を設置し、青少年センターの青少年一般相談と家庭児童相談室による相談を統合。18歳までの子どもに関する相談に総合的に対応します。
出張相談、フリーダイヤルなど子どもが気軽に相談できる体制を強化します。

一般質問

議会報告会

日時：
1月9日(水)
19:30～
 場所：
メイトム宗像
202会議室



【子ども・子育て会議の設置について】

子ども・子育て関連3法が、2015年に実施され子育て予算が1兆円増額される予定です。保育所の待機児童、保育士の待遇改善、保育と幼児教育の両方の機能を持つ認定子ども園などを設置するなどの内容が示されていますが、子育てのニーズは各市町村で異なります。**宗像市でも待機児童への取り組みは必要で、昨年11月現在で、各保育所の定員数を超過して入所している児童は190人、119人の入所申し込みに対して21人が入所でき、98人は入所を待っているという状況です。**女性の社会進出はますます加速していくことが予想されます。こういった宗像市の現状を踏まえたニーズ調査、それに伴う予算計上、子育てに関わる人の話し合いの場となる子育て会議の設置について質問しました。

【子宮頸がん対策としてHPV(ヒトパピローマウイルス)検査の導入を】

子宮頸がん対策の実績、検診率向上の取り組みと結果、啓蒙の方法、30代女性を中心としたHPV検査の導入、検査費用の一部補助について質問しました。**子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルスに感染しやすいと言われる20代、30代で発症する人が多いがんです。**そのため、この時期の検診率を高めることが必要だと思います。検診によって死亡率を下げるだけでなく子どもを産み育てることに深く関わる子宮を守るために大切です。宗像市の検診率をみると、少しずつ向上の傾向にありますが、16%と低く、しかも比較的年齢の高い女性の受診率が多い傾向にあります。HPV検査導入によって若年者の検診率が向上し、頸がんの早期発見につながったという市町村の実例（島根県出雲市）もあります。HPV検査の安全性を十分考えた上で、導入を検討したいとの答弁がありました。

出会い、暮らし

雨どいからホースを設置し、かめに溜まった雨水は庭の野菜や花を育てたりトイレの水を流すのに使います。雨水は硬水でないから洗濯物の汚れも落ちやすいんですよ。こうした雨水を再利用することで洪水対策にもなるし、雨が降らない時の渇水対策にもなるのでは？
「福岡市では、雨水の活用に対して助成金をつけていますよ。」「水道料金支払？もちろん下がりましたよ。」と語るFさん。こうした知恵を出し、生活を豊かに楽しんでいる人との出会いに、ハッとさせられ、大切なことに気づきます。気づくだけでなく、こうした市民の知恵や努力を認め、形にすることがわたしの役割なのだと改めて感じました。

雨どいから
 流れる雨水



(ご本人の許可を得て撮影。すべて雨水です。)